

## 『 国際理解(見えないものを見る) ～経済格差から考えてみよう!～ 』

学校名・名前 : 百合学院中学・高等学校 ・ 大窪 麻紀  
 実践教科 : 総合的な学習、国語科  
 指導時数 : 10時間(パーム油に関する外部講師の授業を含む)  
 対象学年・人数 : 高校2年生100名、中学2年生20名

## 1. カリキュラム

## (1)実践の目的

わが校はカトリックの女子校で、毎月アフリカの「シエラレオネ」に10円募金をしている。「シエラレオネ」は 2002年に内戦が終わり、2007年8月には選挙が行われ自立しつつあるいわゆる「開発途上国」である。募金で集まったお金は現地にいるシスターに送られ、教育のために使われている。3月に実際に行き、そこで見た状況や子どもたちの屈託ない笑顔を生徒に伝えた。反響は大きく、生徒たちは自分たちのお金が一時的な援助でなく、「教育」という自立支援に使われている意味を考えてくれた。また、同時に平均寿命が世界一短い41歳という現状から考えても「シエラレオネ」が多くの問題を抱えていることにも気づき、何が必要なのかを考えたようである。

まずは「知る」ということ、そして知ったうえでその国に対して、中学・高校生である自分たちに何ができるかを自分たちなりに考え、実際、品質がよく手ごろな価格の文房具(シエラレオネは高価で質が悪い)を集めたり、手作りハンドタオルを作ったりし、子どもたちに送っている。募金以外にもできることがあることを知り、実際に手助けができることに喜びを感じているようである。今回訪れた「インドネシア共和国」は、援助は受けているがその援助額も減少しつつある、いわゆる「新興国」であり、「シエラレオネ」とは違う意味で多くの問題を抱えている。それを総合学習のテーマが「環境」である中学2年生と、テーマが「国際理解」である高校2年生で「パーム油」の話を中心に置き、考えてもらいたいと思い授業実践をした。

## (2)授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>1時限目</b> (国際理解学習の導入) <b>①【開発途上国・新興国・先進国を知ろう!】</b> ・それぞれの国の特徴をつかむ。	・募金支援を通して自分たちになじみのある国シエラレオネと新興国、日本をユニセフの資料で比べ、何が言えるかを考える。 ・実際に開発途上国であるシエラレオネ、新興国であるインドネシアの写真を見せ、その現状を知る。	ワークシート、 お金、楽器、写真、 地図、教科書、 HALALマーク、 パーム油使用のお菓子
<b>2・3時限目</b> (世界のつながりを考える) <b>②【貿易ゲームをしよう!】</b> ・世界は経済の面はもちろん、環境などの面でもつながりのあることを知る。	・資料の揃っている国(A～F)を挙げ、それぞれグループになり、与えられた条件でお金を稼いでいく。 ・人口、資源、技術、資金などそれぞれ自分の国を把握し、何ができるかを考えると同時に他国とのつながりを捉える。	ワークシート①② ゲームに必要なもの

<p><b>4時限目</b>(ふりかえり)</p> <p><b>③【貿易ゲームから考えたことを発表して深めよう！】</b></p> <p>・自分たちだけ幸せになることを考えては「国際理解」はできないことに気づく。</p>	<p>・個人で書いた感想を貿易ゲームのグループで出し合い、まとめる。</p> <p>・グループの意見として全体で発表し、それぞれの立場での意見を知ることによって他国のことを知る。</p>	<p>ワークシート②</p>
<p><b>5時限目</b></p> <p>(経済格差から生じる環境問題①)</p> <p><b>④【日本も昔はこうだった！】</b></p> <p>・日本も戦後は他国からの援助で支えられていたことを知る。</p> <p>・開発が優先され、環境問題にまで目が向かなかった現状を捉える(環境問題が注目されたのは最近)。</p>	<p>・戦後日本が世界銀行から援助を受けてつくられたものを具体的に挙げる。</p> <p>・環境問題が後回しになったために生じた公害、公害病を捉える。</p> <p>・インドネシアの主な環境問題を3つ挙げ、写真を見ながら現状を捉える。</p> <p>・インドネシアでも環境に取り組み出した地域(パハラ)の話をする。</p>	<p>ワークシート③④⑤</p> <p>写真</p>
<p><b>6・7時限目</b></p> <p>(経済格差から生じる環境問題②)</p> <p><b>⑤【世界はつながっている！】</b></p> <p>・なぜ開発途上国はそのような現状なのか、考える。</p> <p>・つながっているからこそ、開発途上国が抱えている問題を捉える。</p> <p>・先進国の国民である私たちがなすべきことを考える。</p>	<p>・「エビ物語」から先進国の消費のために、開発途上国にどのような影響が出ているかを考え、さらに地球資源にもかかわってくることを知る。</p>	<p>レジュメ①②</p> <p>ビデオ「エビ物語」</p>
<p><b>8時限目</b></p> <p>(経済格差から生じる環境問題③)</p> <p><b>⑥【ボルネオゾウ、大河を渡る】</b></p> <p>・ボルネオゾウがマレーシアの大河を渡っている話から、その原因となるアブラヤシのプランテーションの存在を知る。</p> <p>・アブラヤシからとれるパーム油が日本でもさまざまなものに使われ、「自然や人体にやさしい」と需要が高まっていることを知る。</p> <p>・先進国の消費のために開発途上国の森林破壊が進んでいる現状を捉える。</p>	<p>・「AERA」の記事「ボルネオゾウ、大河を渡る—自然にやさしいの逆説」を読み、現状を知る(マレーシアの話だがインドネシアも同様であることを指摘)。</p> <p>・ワークシートで「パーム油」のもたらす「問題点」と「よい点」を挙げる。</p> <p>・環境破壊が叫ばれているにもかかわらず現状がそのままであるのかをサイクルにして考えてみる。</p>	<p>記事</p> <p>ワークシート⑥</p>
<p><b>9・10時限目</b>(荒川共生氏による出張授業)</p> <p><b>⑦【見えない油、パーム油はどこから来ている？】</b></p> <p>・消費者、生産者、企業の販売者、原住民、ゾウを助ける人、それぞれの立場の主張を知る。</p> <p>・お互いがよい方向に進むにはどのような策があるか、考える。</p> <p>・「消費しない」など消極的な策以外に現実に見合った「私たちにできること」を考える。</p>	<p>・一枚の写真から何がうかがわれるか、想像力を働かせ、それぞれに意見を出し合い、写真が訴えること(見えない部分)をつかむ。</p> <p>・映像から、大規模なプランテーション開発によって棲みかを失ったゾウが危険を冒して河を渡る実態を知る。</p> <p>・具体的な企業「サラヤ」とJICAの専門家の呼びかけで始まった「ボルネオ保全基金」の取り組みの記事から私たち消費者ができることを考える。</p>	<p>荒川氏(P4 参照)</p> <p>持参(写真、記事)</p>

## 2. 授業の詳細

### 1時限目 (国際理解学習の導入) ①【開発途上国・新興国・先進国を知ろう!】

ワークシート(一部抜粋)

	5歳未満児死亡率	1人あたりGNP	出生時の平均寿命	初等教育就学率
シエラレオネ	283 (世界1)	200	41	41
日本	4	37180	82	100
南アジア	92	600	63	74

\* ユニセフ子ども白書2004年より

・「5歳未満児死亡率」は出生1000人あたりの死亡率

・「1人あたりGNP」は国民総所得 米ドル換算値

#### \* シエラレオネ(開発途上国)



##### ①子どもたちは穀物を挽いて食事の準備

シエラレオネでは共同のかまどで食事の準備をするのが普通であり1日2回が一般的。子どもは多いが、5人に3人は5歳になるまでに亡くなってしまう。



##### ②みんなで分け合っの食事

シエラレオネの子どもたちは一つの飴も歯で割って分け合う。一日の終わりには生きられたことに感謝して歌を歌う。物ではない、心の豊かさを感じる。



##### ③一般的な家屋

電気も通っていないので、昼間でも家の中は暗い。みんな外に出ている。一軒の家に子どもが7人~8人いるのが普通。しかしけんかはほとんどないようだ。

#### \* インドネシア(新興国)



##### ①学校のトイレ

前にある「水がめ」の水で流す。その意味では水洗トイレ。紙はなく、左手で洗う(?)。イスラム教では左手は「不浄の手」なので、決して人に物を渡したり、握手したりするときには用いない。



##### ②一般家庭で交流

頭には新聞紙で作った「かぶと」。手にしているのは習字で書いた自分の名前。子どもたちは何にも興味を示してくれました。後ろのお母さんは浴衣を気に入り、暑い中でも着てくれた。



##### ③一般的な家屋

家族のつながりが深く、親戚が近くに住んでいることが多い。日本人である私たちにとっても親切にしてくれ、交流の場では「お客さん」として扱ってくれた。



##### ④イスラム教の女の子たちと普通の公立の学校の様子

「南中ソーラン」を出し物としみんなで披露したら、歓迎のゲームなどをしてくれた。どこの国でも同じ中学生だと感じた一時。



##### ⑤学校にある「モスク」

イスラム教のお祈りの場である「モスク」どこの学校でもたいてい見られる。神聖な場であるので、ここに入る前には手や足を洗う。洗場がちゃんと横にある。

## 【実際の授業風景】

①どう？似合ってる？



頭 →イスラム教徒(インドネシアでは90%)の女性が、髪を隠すためにかぶるジルバブ  
左手→HALALマーク(イスラム圏で問題がない食材であるという証明。豚肉エキスなども含んでいないことを示す)のついたお菓子  
右手→インドネシアの露店で買い求めた「団扇」  
しっかり編みこまれている

②お菓子の味見もしました！



お菓子の袋には、後から出てくる「パーム油」の表示もされていた。日本ではほとんど「植物性油脂」としか記載されていないので、見方によっては(宗教的なこともあり)インドネシアの方が意識が高いように感じる。

③HALALマークの説明や文化について聞きました。



④インドネシアの旗や地図、お金を持って「チーズ！」



インドネシア国旗

赤→勇気

白→「潔白」を表し、「潔白の上に立つ勇気」の意味。

## \* まとめ

(実際に配布したワークシートを一部抜粋。生徒配布の分は括弧は空欄)

### ・世界の経済格差・生活格差を考える

ア 開発途上国は識字率・就学率が(低い)

↓

特に女性は教育を受ける権利を奪われてきた  
(今日でもそのような状態である国も多い)

イ 文字の読み書きに不自由を感じている(非識字)

成人が多ければ多いほど全般的に「5歳未満児死亡率」が(高く)なる

↓

女性の識字率や就学率と乳幼児死亡率との間には強い相関関係がある！

女性に対する人権としての教育が保障されるかどうか、家族の健康管理、特に抵抗力の弱い乳幼児の生存に深く関係している。

### ★ユネスコ『学習権宣言』より

学習権は人間の生存にとって、不可欠な手段である。

もし、女性も男性も、より健康な生活を営もうとするなら、学習権をもたなければならない。

### 【感想・反省】

生徒の感想を書く時間がとれず、聞けなかったのが反省点。生徒たちは実際に「もの」を手に取り、文化の違いを知り、楽しんでいただろう。特にカトリックの学校であるわが校の生徒の中には、イスラム教に興味を抱いている子も多いようだった。「左手は不浄の手であり、それで子どもの頭をなでて、裁判になったこともある」という話や「一日に何度もモスクでお祈りをする」という言葉には生活に浸透する宗教の深さを感じ取っていた。

また、実際のお金を手にし、スーパーの品物の値段の話や、物価の違いに驚いていた。(物価は安い、先生の給料の安さも指摘)。学校の中に「大統領」「副大統領」の写真がどの教室にもあったこと、「旗」がどこでも(道端でも)売っていること、アンケートで、中学生でも愛国心が強いことなどを言うと「自分たちはどうだろうか」ということを考え、自分たちのことを振り返っていたようだった。

**2・3時限目**(世界のつながりを考える)

**②【貿易ゲームをしよう!】**

●ワークシート①

総合的な学習「百合学院的人間学のススメ」  
高校2年生 テーマ「国際理解～経済格差～」  
貿易ゲーム LHR2  
2年( )組( )番( )

《貿易ゲームを終えて》

1あなたはどこのグループに所属していましたか  
( )チーム 国名( )

2ゲームをしていてどのような感情をもちましたか？

---

---

---

3 このゲームの課題「できるだけ多くの富を築く」ために、あなたまたはあなたのグループの人はどのような行動をとりましたか？

---

---

---

4 他のグループの人の意見をきいて、その気持ちを想像してみましょう。

先進国 \_\_\_\_\_  
新興国 \_\_\_\_\_  
発展途上国 \_\_\_\_\_

5 今回のゲームの中で見ながら、世界における貧富の差についてどのようなことを考えますか？

---

---

---

6 次の絵を見て気づいたことを書きましょう

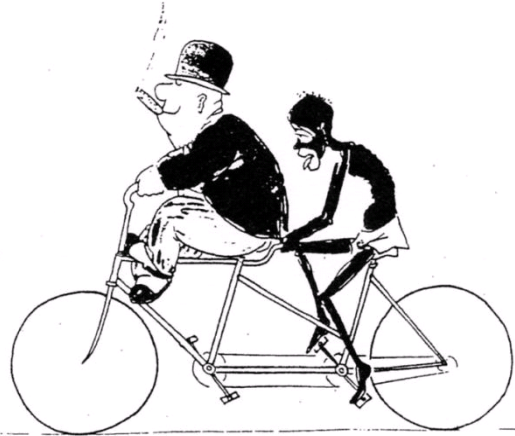
---

---

---

●ワークシート②

総合的な学習「百合学院的人間学のススメ」  
高校2年生 テーマ「国際理解～経済格差～」  
貿易ゲーム LHR3  
2年( )組( )番( )



7 もう一度貿易ゲームをするとして、今度はお互いが富を得られるように考え、公正な立場で貿易をしていくためにはどのようなことが必要だと考えますか？

---

---

---

8 今日の感想をまとめましょう。

---

---

---



## 【生徒の記入したプリントから】

(A子さん)

### 1 Bチーム アメリカ

- 生産をいっぱいして、資産を増やすことでいっぱいだった。
- みんな生産をたくさんして、富を築くため、神経質になり、必死になっていた。道具を借りにきた人にすごくケチになっていた。
- 先進国**→ある道具は、ラッキーだと思い、自己中心的で心貧しく性格が悪くなっていた。

**新興国**→もともと仕事もなく、何もすることがないからヒマそう。

**開発途上国**→道具がなく、資源はあるけれど仕事がない。しかし、心に余裕があり、豊か。

- 物や資源、道具があるか、技術がどれほどあるか、仕事があるかなど、話を聞いて頭で理解するよりも実際に自分たちがその国の立場になることで、どれだけ先進国が便利か、開発途上国が不便か、解決の難しい貧富の差を体験した。

- 先進国**→タバコをふかしている、太い(白人)  
(前の人)余裕の表情

豊かになると働かない

こいでないのにハンドルをにぎる

公害・環境問題(タバコ)

**開発途上国**→ガリガリ、細い(黒人)

(後ろの人)細いのに重労働(苦しう)

服も靴もない

後ろにいたので前が見えない

前がこがないので働かざるをえない

**どっちも幸せに向いているのは同じ！**

- 自分の国だけでなく、周りを見なくてはいけない。貿易を通してお互いが平等になるように情報や物を正しく交換することが必要。
- 私のチームは道具も紙も十分くらいにあったけれど、自分たちのこと(資産を増やす・大量生産)で頭がいっぱいになって、ウガンダチームが紙(資源)しかないことを終わってから聞いて本当にびっくりした。前の席(銀行の近く)であったこともあって、後ろのことが何も見えなくなり、性格がゆがんでケチになっているのが自分でもわかった。ウガンダチームは仕事してもらえた富で、やりがいや達成感を味わっていたようだった。心が豊かだと思った。

(B子さん)

### 1 Dチーム ブラジル

- 最初、「こんなんでできるわけないやん！何でも揃っているチームはずるい」と思った。
- いろいろな工夫をして早く行動した。最初から入っているもので役割分担した。
- 先進国**→自己中心的 周りがみえない。  
**新興国**→周りの国々はけちだと思っている。  
**開発途上国**→少しもうかっただけで嬉しい。
- 資源をむだにしてはいけなかったと思った。先進国と開発途上国ではこんなに違うのかと思った。さまざまな貿易でひとつの物を得ることが分かれると前向きになれる。
- 前的人是こいでないのにハンドルをにぎっていて、後ろの人は裸足でこいでいて、栄養失調であり、体力がない。
- 貧富の差をうめていくには、先進国には後ろの席(新興国・開発途上国)のことが見えていないから、お互いを意識して助け合っていくことが大切で必要だと思う。
- 国々の差があまりに激しいことにおどろいた。公平な貿易をしていくことで差が小さくなり、平等に近づいていくのではないかなと思った。もっと国と国とが助け合っていくべきだと思った。

(C子さん)

### 1 銀行

- 銀行をしていて、アメリカのチームはいろいろ道具も持っていて楽そうだったけど、ウガンダやタンザニアの人は製品をつくるのにとっても大変そうだった。
- 先進国**→あって当たり前だと思っている。  
自分中心でまわりが見えていない。  
**新興国**→仕事がない。銀行はずるい。  
**開発途上国**→心が広い！もうかるとうれしい
- 先進国は全部そろっているので生産量も多いが、開発途上国は生産量も少なく、形がずれていたりして、なかなかお金にならなかった。
- ・豊かな方が働かない→前の人がかげばよい  
・前だけ服を着て、後ろは素足。  
・後ろがこぐのをやめたら自転車はこける。  
・(前を見ている姿勢から)思いは一緒。
- みんな助け合い、同盟を組んだりしたら良いと思う。周りをみなければいけない。
- 何も考えないで生産品を良いか悪いかで判断しお金に換えていたが、客観的にみると先進国の人は生産品を次々持ってきてたけど、開発途上国の人はあまり持ってきてなかった。

#### 4時限目(ふりかえり)

③【貿易ゲームから考えたことを発表して深めよう!】

#### 5時限目(経済格差から生じる環境問題①)

④【日本も昔はこうだった!】

世界銀行の支援でつくられた(開始された)もの・こと

##### 1 学校の給食

「コッペパン」や「脱脂粉乳」の話が出ると聞いたことのある生徒が反応した。



##### 2 1961年 愛知用水が引かれる。

戦後、吉田茂が世界銀行と協力し、アメリカ合衆国の技術と機械を用いわずか5年で完成。



##### 3 黒部ダム

7年の月日を造られた世界有数のアーチ式ドーム



##### 4 東海道新幹線開通

昔は東京—新大阪がひかりで4時間、こだまで5時間かかっていた。



##### 5 1966年東名高速道路開通

東京—静岡間の高速道路の供与を最後に日本は世界銀行からの借りを終えた。



\* これらの写真をパワーポイントで見た後、次のプリントをうめた。



●ワークシート③

総合的な学習「百合学院的人間学のススメ」  
 高校2年生 テーマ「国際理解～経済格差～」  
 貿易ゲーム LHR4  
 2年( )組( )番( )

最後にこの図をみて話し合いをしました。  
 その中でいろいろな意見が出ました。

- ・前の人(先進国)は後ろの人(途上国)に支えられている。支えがなくなると共倒れ。
- ・前に乗っている人は後ろの人が見えていない。
- ・ハンドルは前の人握っている。

そういった状況を見ると先進国が途上国の気持ちを理解していないということが良くわかったと思います。感想の中にも、前の人をもっと後ろの人のことを思いやるべきだという意見がたくさん出されていました。

日本は今では先進国といわれています。しかし、かつて日本は途上国でした。日本も海外からの援助によって助けられていたのです。

たとえば、第二次世界大戦終了後、世界銀行から多くの融資を得てできたものがあります。

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

世界銀行とは戦災国の復興と開発途上国の開発を援助する銀行です。世界192カ国が加盟しており、その資金をもとに途上国へ援助しています。この援助もあり、日本は高度経済成長をとげました。日本は高度成長期を経て大きく発展しました。生活もずいぶん変わり、物があふれて豊かで便利になりました。  
 (生徒の感想から)

貿易ゲームでは自分たちが実際その国の国民になることで見えるものが見えなくなりました。道具がたくさんあり、有利な先進国は自分たちのことばかりになり、道具がゼロに近い開発途上国はそんな先進国に怒りを感じていました。しかし、大量生産をしている先進国に比べて数個しか作れていないのに心の豊かさがあふれていまし

●ワークシート④

総合的な学習「百合学院的人間学のススメ」  
 高校2年生 テーマ「国際理解～経済格差～」  
 貿易ゲーム LHR5  
 2年( )組( )番( )

しかし、経済の成長や物の豊かさを求めるあまり「排水や排気ガス」など環境に悪い影響を与えるものに対する対策が十分行われず、私たちの健康に大きな影響を与えるようになってしまいました。

こうした経済成長の陰で、環境破壊が起こり、(水俣病)(イタイイタイ病)(四日市ぜんそく)といった公害病が発生、大量生産の裏返しとしてのゴミ問題などの公害の問題が、高度経済成長期後半になると深刻化しました。これは、**国民が環境よりも経済成長を優先した結果であるといえます。**

以前の授業でやったシエラレオネのような途上国はまだまだゴミ問題までは及んでいません。今現在新興国(貿易ゲームの中ではインドやブラジル)のゴミや公害問題は深刻です。日本はそのような国に対して今までの日本の反省も踏まえた上で、援助していく必要があります。その援助は本当に行き届いているのでしょうか？

新興国のひとつインドネシアの状況を見てみましょう。



大気汚染



悪臭



水質汚染



土壌汚染

●ワークシート⑤

総合的な学習「百合学院の人間学のススメ」  
 高校2年生 テーマ「国際理解～経済格差～」  
 貿易ゲーム LHR6  
 2年( )組( )番( )

インドネシアの環境問題

- ①(大気汚染)
- ②(森林破壊)
- ③(生物種の減少)

などがあげられます。森林破壊の中には「エビの養殖によるマングローブ林の破壊」の問題などもあります。エビを日本人が食べなければ仕事はなくなります。ある意味で日本人は経済的にインドネシアを支えているともいえるでしょう。しかしそれは同時に環境汚染も招いています。

もうひとつの問題にも目を向けてみましょう。「環境にやさしい」といわれるパーム油の話です。日本の製品の中にはこのパーム油を用いたものが多く存在します。パーム油を使って作った石鹸には「植物性なので使用後は微生物によって分解。完全に水に溶けるので地球にもやさしい石けんです」と書かれてあります。では本当に環境にやさしいのでしょうか？

先日の朝の評論の時間に読んだ「ボルネオゾウ大河を渡る」のプリントをみましょう。  
 2ページ「自然派オイルが人気で」をみましょう。

( **ボルネオゾウ** )が大河を渡り始めた  
 ( 移動をはじめた )  
 ↓なぜか？その答えは  
 ( **アブラヤシのプランテーション** )による  
 ↓ここからとれるもの  
 ( **パームオイル** )  
 これはさまざまな商品に使われています  
 シャンプー・洗剤・カップめん・冷凍レトルト  
 食品・化粧品など  
 3ページ「森が小さくなる」をみましょう。

このパームオイルをとるために  
 ( **熱帯雨林** )  
 →( **アブラヤシプランテーション** )に変わってしまった。しかも、そこに高圧電流の柵を敷いたため、ゾウが動けるルートはどんどん狭まった。  
 ( **ボルネオゾウ** )の食事が減ってしまい、餌を求めて移動しはじめた。

これで「環境にやさしい」といえるのだろうか？ゾウにとっては「やさしい」とはいえない。パーム油は日本にとって都合のいい「環境にやさしい」なのではないだろうか？

【 インドネシア 】



①建設中の港  
 インドネシアの玄関口、ということで大規模な港を見させていただいた。質問をしたが、環境対策はあまり考えられていない感じがうけた。



②街並み  
 とにかく、首都ジャカルタは自動車・二輪車が多い。空気が汚れているので、みんなヘルメットやバンダナで顔を隠している。事故も多い。



③荷物いっぱいの車  
 ルールもあってないようなところがある(あっても守られていないことも多い)荷物の上には人が乗っている。



④森林破壊  
 木が伐採された土地は大規模なプランテーションになったり工場地になったりする。それにより生態系が変わってくることもある。



⑤伐採された木  
 伐採された木パルプ工場に運ばれる木。木が使えるくらいに育つには何十年もかかる。外国に運ばれるものも多い。



⑥絶滅の危機の種  
 「生物多様性保全センター」は国の機関であり、絶滅種なども丁寧に保管してあった。インドネシアは世界の20%の生動物が生息。

## 6・7時限目(経済格差から生じる環境問題②)

### ⑤【世界はつながっている！】

レジュメ①

高校2年生総合学習 LHR プリント

## エビ物語

### 日本の食卓が左右するアジアの運命 《世界のエビの3分の1を消費する日本》

寿司のネタから始まり、エビ天ぷら、エビフライ、エビピラフ、エビグラタン、エビピラフ……。エビなしに、日本の食卓はありえない。日本はホントにエビが好きらしい。

- 日本人一人当たり、一年に平均80匹のエビを食べる。
- 世界のエビの3分の1を食べてしまう。  
でもこんなにたくさんのエビ、どこでとれるか。  
日本のエビの自給率は11%。

エビが食べたい!! だから・・・↓

#### 《方法その1 トロール船》

たとえば、エビをトロール船でとる方法がある。この方法なら一度にたくさんのエビをとることができる。が、ほかの魚もいっしょにとってしまう。そしてたいていの場合、ほかの魚は捨てられてしまう。

このトロール漁法を使って国内のエビをとりまくった。しかし国内のエビはとり過ぎで少なくなってしまった。そこで今度は、アジアへ向かったが、ここでもとり過ぎでエビは激減してしまった。

エビがいなくなってしまう!!でも食べたい!!  
だから・・・↓

#### 《方法その2 エビの養殖》

海ではエビがとれにくくなってしまった。そこで注目を浴びたのが養殖。しかし養殖場をつくるためには、大量のマングローブの林を切り開かなければならなかった。そして大規模な養殖のためにマングローブは伐採され、地域の生態系や人々の生活様式は崩壊してしまった……。

その上に・・・↓

### 《養殖の被害》

養殖のためには、多くの人工飼料が使われる。が、食べ残されたエサやふんなどにより水が汚染。最初は十分な生産をあげることができるが、数年過ぎ、池が汚染されてくると、水質の管理は難しくなり、エビは病気を発生!!そして死んでいってしまう。多くの場合、養殖池はつくられてから5～10年で捨てるという。捨てられた池はどうなるか?跡地がどう使われているかの詳しい調査はほとんどされていないが、ほったらかしにされていることが多いという。

しかもエビを育てるためにはエサが必要。1キロのエビを育てるためには、5キロの魚を海からエサ用にとってこなければならない。私たちはエビを食べるとき、5倍の魚を食べている!!

レジュメ②

高校2年生総合学習 LHR プリント

食卓に運ばれるエビたちは……

### 《地球のエネルギー問題》

食べ物を外国からの輸入に頼るなんて当たり前のことだと思っているかもしれない。だが、船や飛行機で運ばれてくるということは、それだけ保存や輸送のためにエネルギーを消費していることになる。養殖ではなく、直接海でとられたエビであっても、トロール船を動かすために、エビ1トン当たり10トンの石油が必要になるという。輸送や保存まで含めたら、もっと多くのエネルギーを使うだろう。生産者から消費者までの距離が遠くなればなるほど、それがどこで、だれによって、どうやってつくられたかについて、知ることが難しくなっていく。インド東海岸のクルー村のある住民は「エビを食べる日本人は養殖する地域でどんな問題が起きているのか知ってほしい」と願う。

今考えるべきこと……

### 《世界はつながっている》

世界はつながっている。私たちがエビをたらふく食べることが、めぐりめぐってアジアの人々の運命を左右している。先進国は圧倒的な経済力を武器に、安い単価でエビを大量に購入した。アジアのエビ養殖者は、先進国の投資に支えられているので、どんなに環境を犠牲にしても生産を続けた。先進国から借金している途上国にとって、自らの意思でやめることは不可能なのだ。

先進国はこうして環境破壊を「輸出」してきた。

**8時限目(経済格差から生じる環境問題③)**

**⑥ボルネオゾウ大河を渡る**

\*『AERA』2007/2/19の記事から

(写真家 横塚眞己人 文・写真)

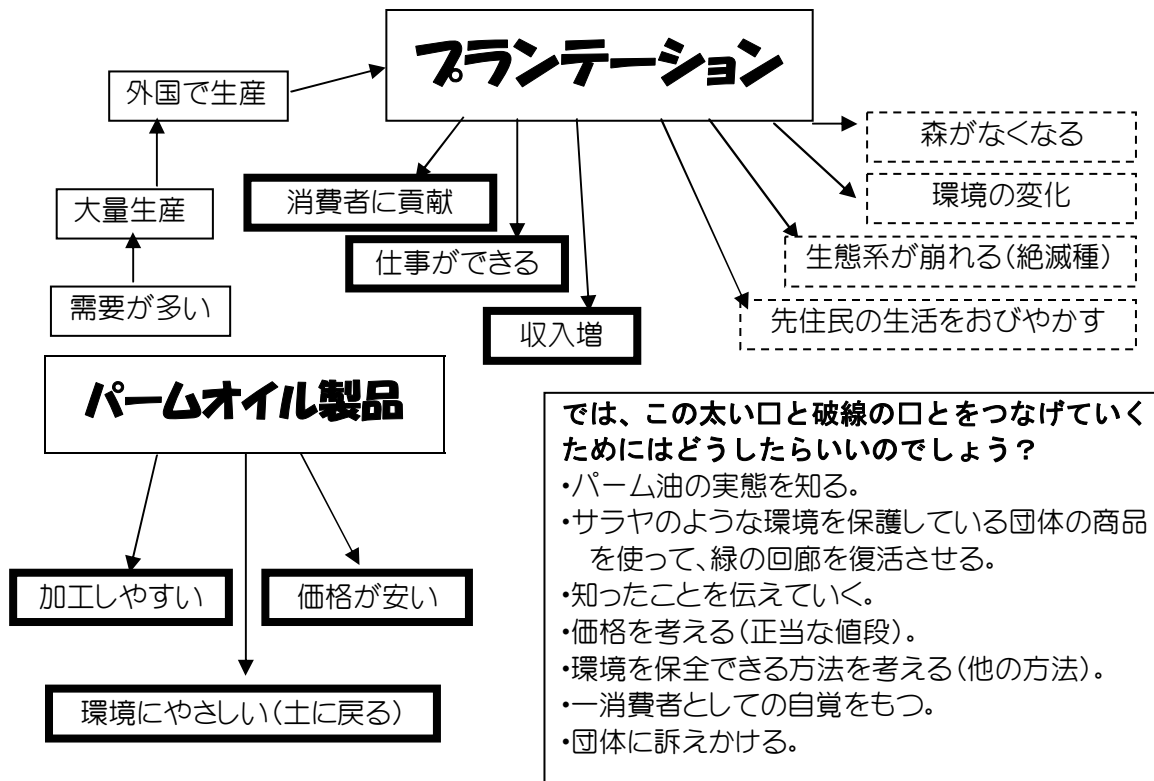
\*「ボルネオ熱帯雨林守れーJICA など基金設立」 新聞記事から(荒川氏 事前に配布)

**●ワークシート⑥**

1. パーム油の問題点と良い点をあげてみましょう。(生徒配布分は、問題点、良い点、口は白紙)

問題点	良い点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・加工工場(24時間稼働)が必要</li> <li>・3000haの敷地が必要</li> <li>・先住民の生活を奪う</li> <li>・子どもたちに森を残せない</li> <li>・多くの生物に影響(絶滅)</li> <li>・公害(土壌汚染・大気汚染)</li> <li>・公害病</li> <li>・環境破壊</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事ができる</li> <li>・外貨が稼げる・現金が増える</li> <li>・安い価格で生産できる</li> <li>・消費者に貢献できる</li> <li>・環境にやさしいとされる(土にかえる)</li> <li>・利益になる(会社・その国)</li> <li>・加工しやすい(現地で加工)</li> <li>・補助金</li> </ul>

2. パーム油をめぐるサイクルをつくってみましょう。(太線の口はよいこと・破線の口は問題点。)





( )組( )番( )

最後に…

総合学習の国際理解の中で様々な問題を学びました。貿易ゲームやパーム油の問題で学んだように、世界にはいろいろな立場の人がいます。最後にこの詩を読んでみてください。

まずしさをほっておくということは  
弱いものいじめをして  
こっそり奪っている  
ということとおなじ  
卑怯なこと

けれどそれが止まらない  
なぜなら  
相手が「弱い」ことを  
知らない人がたくさんいる  
それは「いじめ」なんだということに  
気づかずほっておいている  
「やめろよ」という人がいない  
やめるきっかけもなかったし  
やめる方法もわからなかった  
惰性でいまでもまだ  
弱いものいじめが続いている

こっそり奪うことも止まらない  
なぜなら  
こっそりだから見えない  
つぎに  
見えていても  
交換してるのかと思う人がたくさんいて  
奪っているのがわからない  
自分は人のためにしていると思っていても  
結果奪っていることになることもある  
相手の意見をよく聞いて  
奪っているのか奪っていないのか  
調べないといけない  
自分がどう思っているのか  
相手に伝えないといけない

うすうす奪っていたのかなあと思う心がある  
と  
相手が冷静に話し合おうといっても  
怖くなる  
奪っていたことを認めると  
相手が怒って  
とんでもないことが起こるんじゃないかと  
怖くなる  
なんとかいいわけを見つけて  
話し合いから逃げようとする

でもこのごろ  
こっそりは  
あんまりこっそりじゃなくなった

一生懸命知らせようとする人がふえたから

この調子で  
こっそりを減らせれば  
奪う人も減っていく

まちがえちゃいけないのは  
こっそりを減らすことは  
悪いことではなく  
いいことだということ  
こっそりを減らすことが悪いことだという人がいたら  
ちがうよとその場ではっきり教えてあげよう

相手はじぶんだったかもしれないと  
思う想像力を働かせよう  
いずれ自分の身に  
ふりかかってくるということだという  
想像力をはたらかせよう

【生徒の感想】 \* 総合学習を終えて

(A子さん)

私たちの生活は今昔に比べ、とても便利になりました。そしてその生活は普通で当たり前なことだと思っていました。けれど、今より上の生活を求める、この生活の裏には開発途上国の犠牲があることを知りました。私たちは食料が充分にあって、お菓子を食べることができ、学校に行けて、欲しいものが手に入って……これらを「当たり前」だと思っています。しかし、これらは開発途上国の人たちにとっては難しいことなのです。(中略)

私たちは自分たちにとって快適なものを求めるあまり、心の豊かさを失ってしまったことに気づきました。人間らしく心の豊かな開発途上国の人の方が本当の幸せを知っているのかもしれない。この学習で多くのことを学び、知ることができ本当によかったと思います。

(おうちの方から一言)

開発途上国の厳しい現状を学習し、自分たちがいかに恵まれた環境にあるかを実感できたのではないのでしょうか。気づいた今、自分たちは何ができるかを考え、行動してほしいと思います。子どもたちの輝く瞳が忘れられません(12月のクリスマス祝会で写真掲載)

(B子さん)

先進国は開発途上国や、発展の途中である新興国などのほかの国にどのような影響を与えているのか、環境の面からもわしく知ることができた。私たちの生活は今、物にあふれていて、困ることはないけれど、開発途上国には食べるものも、着るものも足りてはいない。でも、そんな中で人々は助け合いながら生きている。すごく感動した。

私は今回この総合学習で、先進国はもっと他の国のことについて理解を深めなければならないと思った。私は今のこの生活を見直していこうと思う。

(おうちの方から一言)

私達の生活が豊かになることが、かけがえのない何かを失うことにつながっている。失った代償は大きすぎて、取り返しのつかないことも多い。今、私達がそのことに気づき、間に合うあいだに一人一人が実践していかなければならないと思いました。貴重な学習ができたと思います。

### 3. 成果と課題

わが校では「百合学院的人間学のススメ」ということで、各学年が総合学習に取り組んでいる。(中学・高校と一貫なので6テーマある)その中で中学2年生が「環境」、高校2年生が「国際理解」であり、このインドネシアの研修が双方に活かせるのではないかと研修前から考えており、ある程度の「授業に活かす」方向性をもって臨んだのはよかったと思う。

実際の授業では、初めの「導入」である程度関心をもってもらえたことが嬉しく、励みになった。実際の「お金」や「地図」、「国旗」そのほかのお土産品を手にするには効果があったと思う。その国特有の「文化を示すもの」は特に興味を示してくれた。「このベール、どうやって被るの?」から始まり、HALALマークの説明をすれば「豚肉のエキスが入っていないスナック菓子はどんな味がするの?」と、特に中学生は好奇心がいっぱいだった。同時にパワーポイントで実際の写真をみせたこともよかったと思う。数ヶ月前の生の写真であり、テレビのニュースなどではない「日常」が写されていることが思いの外よかった。ただ、欲を言えばもう1時間設定し、説明を加えながらビデオを見せたかったと思う。せっかくのパハラ(地域でゴミ問題に取り組みりサイクルをすすめている、画期的な取り組みをする町)の取り組みや、インドネシアの騒然とした街並み、ストリートチルドレンでのイン



タビユー(生の声)が音として聞かせられなかったことが悔やまれる。そうすれば臨場感ももてたのではないだろうか。いずれにせよ「何かを伝える」には視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚の五感を充分活用すべきだと思った。その意味では聞いた話やインターネットの情報だけでなく、自分が実際に体験したこと、感じたことを話せたのは自分にとっても喜びであり、この研修のおかげだと思っている。

授業の展開として、貿易ゲームを含め、「他国との比較」がパワーポイントの写真を見ながらできたこともよかった。幸いなことに春にアフリカの「シエラレオネ」という、いわゆる開発途上国を訪れたこともあり、新興国であるインドネシア、先進国の日本との比較がしやすかった。特にインドネシアは東西に長く、近代的なビルが立ち並ぶ首都と田舎、バリなどのリゾート地(これは写真はなかったけれど、想像ができたみたいであった)が大きく違うことを知り、新興国の特徴をつかんでいたように思う。

最後に「アジアボランティアセンター」の荒川氏によるパーム油の授業で、生徒たちは日本などの先進国が他国(特に森林が多いアジアの新興国・ダイヤモンドの産地である開発途上国)との関わりでさまざまな問題を抱えていることに気づいた。「経済格差」がもたらすもの、表面にはあらわれない隠れた事実を知ったことは大きな意味があったように思う。それが環境問題を含め、最終的には自分たちの生活にも影響を及ぼしていることに気づき、今、自分たちが何をすべきか、何ができるかを真剣に考えてくれたらと願う。客観的な立場からさまざまな視線で物事をとらえ、考えることができる柔軟な姿勢をもつことに「総合学習」の意味があると思う。この実践が「考える」ことの第一歩になってくれていたら嬉しく思う。

最後になりますが、事前研修を含め、現地での日程や訪問先を希望を聞きながら折衝をして下さった JICA、JOCA の担当の方、研修中もアドバイスをくださり手助けして下さった先生方、そして荒川先生、本当に有難うございました。心より感謝します。

<b>Questions to the children</b>	
<b>Question</b>	<b>Answer</b>
① Do you like your own country?	<input type="checkbox"/> Yes <input type="checkbox"/> No
If you answer "yes", what do you dislike about your country?	
If you answer "no", what do you like about your country?	
② Express the culture of your country by some word. For example "Maraca"	
③ What (or who) do you think is the most important for you?	
④ Do you like studying?	
⑤ What subject do you like best?	
⑥ What subject do you dislike the most?	
⑦ What play do you like best?	
⑧ What do you want the most now?	
Why do you want it the most?	
⑨ Do you have something that you want to be?	<input type="checkbox"/> Yes <input type="checkbox"/> No
If you answer "yes", tell me about it.	
⑩ Do you know Japan?	<input type="checkbox"/> Yes <input type="checkbox"/> No
If you answer "yes", express your image of Japan by some words.	
⑪ Do you like yourself?	
⑫ Write your good points.	
⑬ Write what you think or know about environmental problems.	

<b>インドネシアの子どもへのアンケート</b>	
<b>質問事項</b>	<b>回 答</b>
①自分の国は好きですか？	ア はい イ いいえ ウ 分からない
「好き」と答えた人はどんなところが好きですか？	
「いいえ」と答えた人はどんなところが好きでないのですか？	
②自分の国の文化を単語で紹介してください	
③一番大切にしているもの(人)を教えてください	
④勉強は好きですか？	
⑤一番好きな教科は何ですか？	
⑥嫌いな教科は何ですか？	
⑦一番好きな遊びは何ですか？	
⑧いま、一番欲しいものは何ですか？	
なぜそれが欲しいのですか？	
⑨将来、なりたいもの(職業)がありますか？	ア ある イ ない ウ わからない(まだ決めていない)
「ある」と答えた人はどんなものですか？	
⑩インドネシアを知っていますか？	ア 知っている イ 知らない
知っている人はどんなイメージがあるか、単語で書いてください	
⑪自分のことを好きですか？	
⑫自分のいいところを書いてください	
⑬環境問題に関して、思っていること、知っていることを書いてください	

資料3. インドネシアアンケート(結果)

質問事項	インドネシアの子ども(15歳)	日本の子ども(15歳)
①自分の国は好きですか？	はい(88%) いいえ(12%)	はい(78%) いいえ(1%) 分からない(11%)
②「好き」と答えた人はどんなところが好きですか？	生まれた国だから 美しいところ 多くの文化がある 友好的	戦争をしないところ・平和 文化 ご飯がおいしい 治安がよい 好きなことができる・自由 景色 親切な人が多い
③「いいえ」と答えた人はどんなところが好きでないのですか？	雨期と乾期しかないから 汚職がある 公害がある	命を大切にしない人が多い 犯罪がある
④自分の国の文化を単語で紹介してください	文化 食べ物 ダンス 伝統 バリ島	和 着物 茶道 華道 演歌 畳 お米 おすし 漫画 日本舞踊 お正月 能楽 神社 伝統 七夕
⑤一番大切にしているもの(人)を教えてください	家族(52%) 友達(25%) 母(20%) 父(3%)	家族(40%) 友達(36%) 人(9%) 犬(5%) お金(5%) なし(3%) 愛(2%)
⑥勉強は好きですか？	はい(97%) いいえ(3%)	はい(26%) いいえ(57%) どちらでもない(13%)
⑦一番好きな教科は何ですか？	数学(25%) 地理(15%) 生物(15%) 歴史(12%)	体育(36%) 数学(23%) 国語(15%) 英語(12%) 音楽(6%) 理科(5%)
⑧嫌いな教科は何ですか？	数学(23%) 歴史(22%) 英語(22%) 地理(11%)	数学(32%) 社会(25%) 理科(15%) 国語(14%) 英語(10%)
⑨一番好きな遊びは何ですか？	フットボール(32%) バスケット(16%) ゲーム(16%) バドミントン(15%) 運転(11%)	おにごっこ(25%) ゲーム(18%) ドッチボール(15%) パソコン (9%) カラオケ(9%) テレビ (5%) サッカー(5%)
⑩いま、一番欲しいものは何ですか？	インドネシアの発展 親孝行 スリムな体型 幸せ チェス バスケット コンピューター お金	お金 服 ドラえもん 時間 ゲーム パソコン 犬 本 アイドルのもの 学力 愛
⑪なぜそれが欲しいのですか？	好きだから 幸せにするから	好きだから 何でも買えるから 便利だから ないから
⑫将来、なりたいもの(職業)がありますか？	はい(98%) 無回答(2%)	ある(85%) わからない(10%) ない(5%)
具体的に何ですか？	医者 フットボール選手 ナース エンジニア アーティスト 先生 モデル パティシエ	
⑬日本を知っていますか？ (インドネシア)	はい(100%)	はい(100%)
⑭知っている人はどんなイメージがあるか、単語で書いてください	経済 お金 いい車 白い肌 文化(着物・さくら・雪・漫画) スマート	暑い 貧しいが人が温かい カレー ソウ 明るい 森林伐採
⑮自分のことを好きですか？	はい(100%)	分からない/どちらでもない(46%) きらい(34%) 好き(20%)
⑯自分のいいところを書いてください	フットボールが上手い 親切 思いやりがある 健康 勤勉 ハンサム スマート 分からない	明るい 前向き 社交的 素直 あきらめない 負けずぎらい やさしい 分からない ない
⑰環境問題に関して、思っていること、知っていることを書いてください	真剣に取り組んでいない 無関心 逃げ腰 汚い 温暖化 犯罪 拡大	地球温暖化(70%) 自然破壊(10%) 生態系の乱れ(8%) 絶滅種(5%) ゴミ(4%) リサイクル(3%)

## 『 インドネシアを知る 』 『 インドネシアのストリートチルドレン 』

学校名・名前 : 神戸市立六甲アイランド高等学校 ・ 岩本 芳仁

実践教科 : 公民(国際関係学)

指導時数 : 4時間

対象学年 : 高校2年生 対象人数 : 19人

## 1. カリキュラム

## (1)実践の目的

南北問題やそこから派生する世界の諸問題を学習するにあたり、日本と密接な国であるインドネシアを通して、開発途上国の現状を学ぶ。

さらに国際協力のあり方や重要性について考えるきっかけづくりとする。

## (2)授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目 インドネシアを知る①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インドネシアの地理的概要               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 島嶼国であること、イスラム教徒が大半を占めることなどを理解させる。</li> </ul> </li> <li>・インドネシアの歴史               <ul style="list-style-type: none"> <li>* かつてはオランダの植民地であったことや、これが現在の複雑な国境線になっていることなど理解させる。</li> </ul> </li> <li>・国旗の意味するものを説明する。</li> <li>・インドネシアの産業を、日米などと比較して考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界地図</li> <li>・インドネシア地図</li> <li>・教材プリント</li> </ul>
2時限目 インドネシアを知る②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真のスライドを見せながら説明。 首都ジャカルタの二つの顔(旧態依然の面、近代化されている面)を伝える</li> <li>・訪問地の写真や土産品を見せながら、現地の様子などを説明。</li> <li>・世界遺産であるボロブドゥール、プランバナンを紹介。</li> <li>・ODAなど、日本とインドネシアとの親密な関係を理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真 (パワーポイント)</li> <li>・インドネシアの土産 (竹ペン・しおり・キーホルダーなど)</li> </ul>
3時限目 インドネシアのストリートチルドレン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストリートチルドレンについて知っていることを述べさせる。</li> <li>・インドネシアのストリートチルドレンの現状について写真を交えて説明。 自分たちと同じ世代の青少年が置かれている現状を知るとともに、その原因を理解させる。 * 国際協力への姿勢、問題解決への姿勢を養うきっかけとする。</li> <li>・ペーパークラフトの写真立てや写真を見せ、授産施設の活動などを説明。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真 (パワーポイント)</li> <li>・ペーパークラフト</li> </ul>

<b>4時限目</b> ストリートチルドレンについて考える	・インドネシア以外の国々についてもストリートチルドレンの現状を説明 ・説明をうけて考えながらワークシートへの記述をする。 ・ストリートチルドレンについての課題、支援のあり方などを考えさせる	・NHKTVビデオ ・教材プリント ・ワークシート
----------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------

## 2. 授業の詳細

### 1時限目 「インドネシアを知る①」

1. インドネシアの国是である「多様性のなかの統一」とは多宗教・他民族・多言語、さらに約1万4,000の島々からなる複雑な国土に暮らす人々が、いかに国家としてのまとまりを築いているかを説明する
2. インドネシア国旗を示し、その意味を説明。  
 \* 日章旗の意味もするところも説明し、その共通性なども伝える。

### インドネシア・日本の国旗の比較



赤=自由と勇氣  
 白=正義と純潔をあらわす

ジャワ島では古くから「赤は男性のエネルギー」、「白は女性の純潔」を表す色とする民間習俗があり、これが起源。また、赤は太陽、白は月を表す色として親しまれてきた色である。



赤=熱誠・博愛・活気  
 白=平和・純潔・正義・平等をあらわす

「日の本」の国名にちなみ、白地に日輪をかたどった国旗である。

3. インドネシアの歴史(植民地時代)を「概略年表」で簡潔に説明

#### インドネシア植民地年表

- 1598 オランダ人、ファン・ネック上陸
- 1602 東インド会社設立
- 1610 ジャカルタにオランダ商館設立  
 香料 → コーヒー、砂糖、インド藍
- 1641 オランダの占領 ~ 植民地化
- 1800 東インド会社閉鎖
- 1814 オランダ国王を最高支配者に植民地支配復活  
 「強制裁培制度」導入 (1830~)
- 1926 反オランダの民族蜂起 1ヶ月で鎮圧
- 1942 日本軍の占領
- 1945 インドネシア共和国として独立(スカルノ大統領)

\* インドネシアはかつてオランダの植民地であったこと、太平洋戦争時は日本が占領し、終戦後(8月17日)に独立したことなどを伝える。



#### 4. インドネシアの概略を説明

- ・面積…1,905,000 km<sup>2</sup>(日本の約5倍) (2005 年)  
1万 3,677 の島からなる島嶼国
- ・人口…2億 2,278 万人(世界第4位) (2005 年)
- ・首都…ジャカルタ
- ・独立…1945年8月17日
- ・言語…インドネシア語(他250以上の言語)
- ・宗教…国民の約80%がイスラム教(信者の数が世界最大のイスラム国) (2005年)

#### 5. 日本・アメリカ・ニュージーランドとの産業別人口比較

国 名	第1次産業	第2次産業	第3次産業
インドネシア	44. 3%	18. 6%	37. 1%
日 本	4. 6%	28. 8%	65. 6%
アメリカ	2. 5%	20. 8%	76. 7%
ニュージーランド	8. 2%	21. 9%	69. 8%

(2005年)

- \* 修学旅行でファームステイを体験し、農業国のイメージが強いニュージーランドと比較し、インドネシアの第1次産業人口の多さに注目させる。

### 2時限目 「インドネシアを知る②」

パワーポイントのスライドで撮影した写真を示しながら説明を加え、インドネシアへの理解を深めさせる。

1. ジャカルタ…高層ビルも建ち、官庁街やデパートなどのショッピングセンターなど日本の都市と変わらない一面を持つ首都 → 生徒が想像する開発途上国のイメージとは違った部分
2. バイクの多さについて考えさせる  
国民の大半がマイカーを所持するまでに至らない所得  
\* バイクも日本円にして約20万円(インドネシアでは公立学校教師の給与の10ヶ月分に匹敵する)  
また、鉄道が発達しておらずバイクは交通機関の主となっている
3. 町には屋台が多いのはなぜかを考えさせる  
仕事が少なく、企業に勤める労働者は少ない。すぐに現金収入が期待できる屋台を出し、日々の生活費を稼いでいる。しかも屋台は営業許可を必要としない。
4. インドネシア(ジャワ島)の世界遺産  
「世界遺産」とは何かを説明  
ボロブドゥールとプランバナンを紹介する

#### [ボロブドゥール]

- ・世界最大の大乗仏教遺跡
- ・時代…770～830年頃
- ・語源…ボロブドゥール＝「丘の上の僧房」
- ・1814年 トーマス・ラッフルズ(瑛)が発見



### [プランバナナ]

- ・ヒンドゥー教寺院
- ・時代…858～900年頃
- ・語源…プランバナナ=「たくさんの僧侶」
- ・224の石造寺院群
- ・1549年 大地震で大破



## 5. 日本のODA

現在、日本の最大の援助国はインドネシアであることを説明、また、なぜインドネシアへ巨額のODAがなされるのかを理解させる。

### ◇ ODA 日本が最大援助国である国（2003年 単位百万ドル）

順位	国名	金額	シェア
①	インドネシア	1,141.78	73.6%
②	中国	759.72	66.7%
③	フィリピン	529.72	75.1%
④	ベトナム	484.24	50.0%
⑤	パキスタン	266.22	49.6%

### 【授業に対する生徒の反応】

首都ジャカルタのデパートや高層ビルなどは、生徒が抱くインドネシアのイメージとは、かけ離れていたようである。また、中学生が携帯電話を所持していることや就学率の高さなども意外なことのようである。

### ～所感～

「開発途上国」の国々に対して、その言葉からイメージするものは、現状の10～20年前の姿を想像する傾向が多い。（かつての韓国や現在の中国などもそのような傾向にあったと思う。）ジャワ島のみではあるが、インドネシアの現在の姿、最新の情報をできるだけ克明に伝えられるようにここがけた。

### 3時限目 「インドネシアのストリートチルドレン」

1. ストリートチルドレンについて、生徒の予備知識を出し合わせる
2. ストリートチルドレンの生まれる背景について説明する。
3. 訪問した施設でのストリートチルドレン達との交流を写真を示しながら生徒達に伝える  
インタビュー内容（「楽しみは？」「将来の夢は？」など）も活用する（概要は以下のとおり）

### ストリートチルドレン授産施設

近年、増加傾向にあるストリートチルドレンに対して、収容施設、授産施設の建設が急務。

訪問した施設では9～17歳の9名が生活（訪問日は5人）。

男女別に生活（女子は別の施設に）。

- \* 2006年 JICAの協力終了 → 45人を9グループに分け、各施設に入所しているチルドレン（ペーパーアート、バイク整備の専門学校通学など）

### 【1日の生活】

6時起床

7時登校

午前で学校終了

15:30～16:00帰宅 ⇒ 疲れていなければ、バナナの木伐採。  
(リサイクル材料として売却するため)  
疲れている時は、ペーパーアートの作業。

ペーパーアート : NGO支援＝3年間の活動後、コンサルが入り、JICA の支援へ。  
バナナの皮、たまねぎ、湖の草などで試作を重ねる。

- \* 当初よりできればは上々。今では、ボルネオ島まで出向き研修を行っている。  
(現在は他所で作成指導から、教える立場になっている。)
- ただし、百貨店に卸せるほどの商品ではなく、きちんとした販売ルートは確立されていない。



#### 【通訳・エンドロ氏の話】

- ・ストリートチルドレンは、2000 年ごろから増えだした。
- ・施設に入っていない子どもたちの背後には、「組織」があり、物乞いで稼がされているケースも多い。
- ・食事はあてがわれるようだが、稼ぎが悪いと抜かれたり、虐待されたりで過酷。以前、抜け出そうとした子が「組織」に殺されたケースもあるらしい。）
- ・乳飲み子を抱えた女性の物乞いは、赤ん坊は実子でない場合が多い。これも「組織」下にいるようだ。

#### 4時限目 「ストリートチルドレンについて考える」

1. インドネシアのストリートチルドレンについて、学習した内容をさらに広げて、他地域のストリートチルドレンについても考え、理解を深める。
2. ストリートチルドレンに対する課題を見だし、自分たちにもできる支援活動を考えてみる。

#### 【授業に対する生徒の反応】

ストリートチルドレンは孤児ばかりだと思っていたようである。授産施設など支援活動はなされているが、インドネシア政府の支援は不十分であるという印象も。ストリートチルドレン達が自らの力で自立しようとする姿は、同世代の彼らにも印象深いようである。

～所感～

ストリートチルドレンの存在は知っているが、原因や実情については、よくわからないという生徒が多かった。

自分たちにもできる支援活動として、多くの生徒は“募金活動”をあげたが、「現状を知り、知識を広げ、人に伝えていくことも立派な支援活動である。」ということの説明したらそれにも納得の様子。

### 3. 成果と課題

これまでインドネシアについて学習する機会は皆無であり、生徒の大半は「暑い国」、「アジアの開発途上国」くらいのイメージしか持たなかったが、インドネシアの伸びゆく面や、逆に抱え続ける課題などを伝えられたと思う。

授業で諸外国の実情を取りあげる場合、実際に自分が足を運び、目で見、現地の方々から話を聞くということが、いかに内容の濃いものになるかと実感した。

また、戦時中、戦後における日本との密接な関係を理解することは、平和教育や国際協力などにつながるうえで、重要事項としてとらえた。

教材の扱い方やこちらの話し方によっては、インドネシアのみならず、開発途上国に対する誤った知識、偏見を生み出すことにもなりかねない。生徒たちに正確な情報を与え、問題解決の姿勢を養い、広い視野に立った国際感覚の豊かな生徒を育てることで、教師海外研修に参加した意義もあろうかと思う次第である。

## 『 豊かさとはなんだろう ～インドネシアを通してみえるもの～ 』

学校名・名前 : 兵庫県立加古川南高等学校 ・ 藤川 綾香

実践教科 : 社会福祉基礎

指導時数 : 10時間

対象学年 : 高校2年生                      対象人数 : 19人

## 1. カリキュラム

## (1)実践の目的

兵庫県内の外国人登録者数は、10万人以上、加古川では2,314人となり、本校にも在日韓国人の生徒や、母親が外国人である生徒も在籍している。本校は総合学科で「異文化理解」という授業があったり、国際交流が行われており、生徒たちは国際交流や異文化理解に漠然とではあるが興味をもっている。ちょうど2年次の11月にマレーシア修学旅行を控えていたので、私の担当する福祉の授業で、日本とインドネシアとの関わりを通して児童福祉や災害支援をテーマに授業したいと考えた。「外国＝先進諸国」というイメージを持つ生徒も少なくないが、決してマイナスイメージを持たせることなく、開発途上国の現状と高校生にできることを考えさせたい。

具体的には、社会福祉基礎の授業で豊かさをテーマに開発途上国の状況についてとりあげたい。福祉は、すべての人々が幸せに暮らすことを目標に考える教科である。今回の研修で私自身が経験したことを通し、豊かさ＝幸せではないこと、貧しさ＝不幸ではないことを生徒たちに伝え、高校生として国際社会の抱える問題に何らかの形で参加できることを考えさせたい。一つには、インドネシアの地震後の状況を伝え、身体障害者となられた方への支援のありかたについて考えさせ、日本の障害者への援助と比較させて、自分たちの置かれている状況を見直すきっかけにさせたい。もう一つには、ストリートチルドレンの支援施設について学習し、世界には搾取され労働を強いられる子どもたちがいることや「子どもの権利条約」について触れたい。

そして、今までの自分の生活を振り返り、生徒たちが「当たり前」と感じ行っていることが、実は当たり前ではないことや、貧困の中で命さえも危ぶまれる生活を送っている人々もいることを知らせたい。そして、高校生としてできることを考えさせたい。

## (2)授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目 フォトランゲージ 「地球家族」	・班ごとに異なる2カ国の写真「地球家族」の写真を用いて、世界中の暮らしを想像し、豊かさとは何かについて考える導入にする。	フォトランゲージ ワークシート

<b>2時間目</b> インドネシアを知る 「インドネシアのはてな？とびっくり！」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PPT「インドネシアのはてな？とびっくり！」を用いクイズ形式で地理、人口、気候、服装、食生活、言語、教育制度、日常生活について紹介する。</li> </ul>	PPT・ワークシート・国旗・シルバブ・サンバルソース
<b>3時間目</b> 他の文化を知るといことは？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インドネシアのゲシアン村の交流会・ホームビジットで異文化交流をした内容を紹介する。</li> <li>・自分たちが日本について紹介するなら何を紹介するか、また異文化を理解するのに必要なことを考えさせ、ユネスコの憲章序文を読む。</li> </ul>	PPT
<b>4時間目</b> 世界がもし100人の村だったら	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界がもし100人の村だったら」をシュミレーションする。</li> <li>・世界中に多様な文化や言語を持つ人が住んでいること、大きな貧富の差があること等、本の中に書かれていることを体験的に学ばせ、日本はどこに位置するかを考えさせる。</li> </ul>	PPT・ひも・ジュース・紙コップ等
<b>5・6時間目</b> 貿易ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貿易ゲームを通し貧富の差の原因や解決策を考えさせる。(南北格差／自由貿易や市場価値の変化／移住労働者／援助について)</li> </ul>	PPT・はさみ・定規・コンパス等
<b>7・8時間目</b> 支援とはなんだろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インドネシアでの地震によって、下半身麻痺になられたお二人を通して、具体的な援助の事例について学ぶ。</li> <li>・インタビューや写真から想像できるニーズを考えさせる。</li> <li>・必要な支援はどんなものかを考えさせ、JICAのビデオを見て実際にあった援助を知らせる。</li> <li>・看護師さんに伺ったお話のDVDを見せる。</li> </ul>	PPT・DVD・ワークシート
<b>9・10 時間目</b> インドネシアの子どもたちと子どもの権利条約	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストリートチルドレンとは何かについて学習させる。</li> <li>・ストリートチルドレンの施設について知らせる。</li> <li>・子どもの権利条約に関するワークショップを行う。</li> </ul>	PPT・ワークシート

※ なお、2時間目PPT「インドネシアのはてな？とびっくり！」は、少し内容を変えて、修学旅行前のLHRにおいて担任するクラスで、事前学習として40人を対象に授業を行った。

## 2. 授業の詳細

### 1時間目 「フォトランゲージ『地球家族』」

「豊かさとは何か」の導入として「地球家族」を使用し授業を行った。世界の普通の暮らしに目を向けさせ、異なる2カ国(先進諸国と開発途上国)の写真をみて、気づくことを記述し、班ごとにまと

めた。「豊か」と思うのはどちらか、またその理由も考え、各班ごとに発表させた。さらに日本の写真を見て、感じたことを考えた後、豊かさとは何か、自分の言葉で記入させた。ここでは、できた答



えについて言及せずに関わり、これから考えていくことを告げて導入とした。

【生徒が考えた「豊かさ」】

- ・ みんながお互いに支えあって生きていくことができたら、それでいいと思う。不自由があっても生活ができたら十分豊かだと思ふ。日本の暮らしは豊かというより贅沢かもしれない。それで慣れていると不自由な生活は無理だろう。
- ・ 国によって豊かさは違うけれど、その国に住んでいる人が幸せと思っていたら、豊かだと思ふ。たとえ貯金が無くても楽しく暮らしているなら良いと思ふ。
- ・ 欲を言えば、清潔とか食べ物に困らないとかいろいろ出てくるけど、自分が豊かだと思ったら他の人から見て、貧乏でも豊かだと思ふ。
- ・ 自分が幸せかどうかで決まる。物も大切だけど、生活が充実するのも大切だと思ふ。笑って写真に写っている、この人たちみたいな生活が本当に豊かなのかも。
- ・ 豊かって何やらなあって改めて思ふ。きっと「豊か」＝「幸せ」って別につながってないだろうな。物があるから豊かとか、何も周りにないから豊かじゃないってことは絶対無いと思ふ。「豊か」という言葉をこれってひとつで説明できないんだと思ふ。



## 2時限目 「インドネシアを知る『インドネシアのはてな？とびっくり！』

まず、インドネシアと聞いて連想することをたくさん発表させた。暑い、バナナ、森、島、熱帯雨林、宗教、田舎、黄色人種、地震、果物、貧困、ブラックタイガーの輸入、イスラム教、食べ物が甘そうなどのような言葉がでてきたが、あまり詳しくはわからない、というのが正直なところだった。その後、PPT やワークシートを使用して、クイズ形式でインドネシアの学校生活、宗教、習慣、食生活について紹介した。パワーポイントだけでなく、地図や国旗、実物のジルバブを用いてイスラム教の女性の服装、サンバルソースを用いて食生活を紹介した。

修学旅行で訪問するマレーシアと似ている部分が多く、宗教や服装、食べ物のことにとっても興味をもって聞いていた。また、マレー語と似ているインドネシア語についても紹介した。生徒と年齢の近い子どもたちの写真を見せ、教育制度や学校生活について紹介した。最後に、インドネシアの子どもたちにとつた同じアンケートをして、どう答えるか想像してもらった。

この授業は、生徒たちはとても反応がよく、積極的にクイズに答えたり、「へー」と感心し、子どもの写真を見ては「かわいいなあ」と言っていた。生徒たちは、修学旅行の事前学習としてマレーシアについては学んでいるため、隣の国のインドネシアに親しみやすさは感じて、「実は意外に何も知らないんだなあ」と話していた。

PPT「インドネシアのはてな？とびっくり！」より抜粋

 <p>WE LOVE INDONESIA</p> <p>社会福祉基礎</p>	<p>インドネシアのはてな？とびっくり！</p> <p>学校編</p> <p>③ 学校には給食がある</p> <p>NO</p>	<p>屋台がある！ 授業は屋まで</p> 
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>インドネシアのはてな？とびっくり！</p> <p>学校編</p> <p>③ 学校の制服は、曜日によって全国で決まっている</p> <p>YES</p>	<p>金曜日はお祈りできる格好に</p> <p>中学校</p> <p>保育園</p> 	<p>ちなみに女性の服装は？</p> 
<p>私も持っています</p> 	<p>日本のトイレとどこがちがう？</p> 	

### 3時限目 「他の文化を知ること」

インドネシアのゲシアン村で交流したことを紹介して異文化理解とは何か考えさせた。小学校だけでなく、中学校でもソーラン節を踊ったこと、見てくれる人はみんな好意的だったことなどを伝えた。ソーラン節以外に、習字・折り紙・すもう・お手玉・紙風船等をインドネシアの子どもたちに紹介したことを伝えた。ホームビジットでインドネシアの子どもの遊びについて教えてもらっている動画や、茶道を紹介している動画を見せた。インドネシアの子どもの遊びをみて、「ケンケンパーに似てるなあ」とか「私らもこんな遊びやったで」と、言っていた。また私がたてたお茶を飲んでいるインドネシアの子どもたちを見ながら、「私も苦くて飲まれへんのに、一生懸命飲んでるなあ。」とか、「先生良かったやん。」と口々に言っていた。

次に、インドネシアのあちこちで見つけた「日本」を写真で紹介した。ドラえものの漫画やCD、日本企業の看板などがあることを話すと、驚いていた。もし、自分たちが日本について紹介するなら、何を紹介するか考えさせたが、難しそうにしていた。そして異文化を理解するのに必要なことは何か考えさせた。文化に優劣がつけられる？との問いには、みんなそろってNOと言ったが、自分た

ちと違う生活習慣をどれだけ受け入れるだろうか？と聞くと、わからない、と答えていた。最後に、教科書にあるユネスコ憲章の序文を読み、相互の風習と生活を知ろうと努力することがなぜ大切なのかまとめた。最後の部分は、生徒たちから引き出したかったが、言葉の解説をしながら説明をしていった。

### 4時限目 「世界がもし 100 人の村だったら」

世界中に多様な文化や言語を持つ人が住み、そこには大きな貧富の差があることが本の中に書かれており、それを体験的に学ばせ、日本はどこに位置するかを考えさせる。世界の人口や男女比をみて、開発途上国と先進国の男女比の違いが何に起因しているか考えさせる。人口のなかに占める高齢者、若年者の構成に気づかせる。大陸ごとの人口密度の違いや人口の8割は開発途上国に住んでいることを認識させる。世界には多様な言語が存在することを実感させ、少数言語が世界から消えていく現状を知らせる。どのような国で識字率が低いのか、それはなぜかを考えさせ、実際貧しい開発途上国に暮らす人々は、非識字者である場合が多いことにも触れる。世界全体の富の配分が、どのくらい不公平であるかを体

験させる。特に富が先進国に集中し、開発途上国では、多くの人口で少ない富をさらに配分しなければならないことに気づかせる。

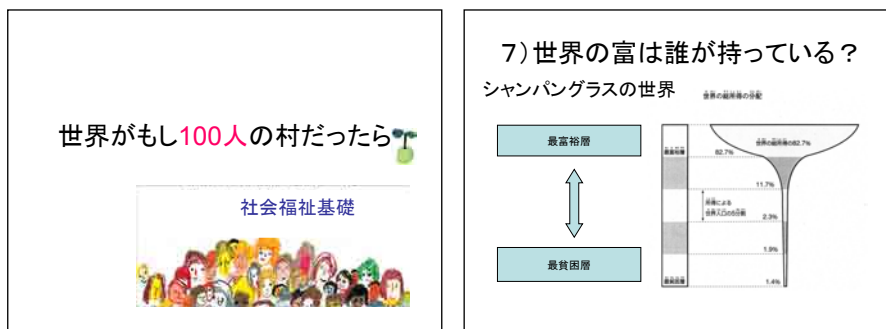
【生徒の感想】

- ・ どれだけ自分が“世界”の国についてあいまいに見てきたかを改めて感じた。言葉だけじゃ伝わらない部分ってたくさんあると思った。体験することで身近に感じることができた。
- ・ このゲームの中では、どこが豊かでどこが貧しいか、私たちは分かったけど、どの国の人も自分を貧しいと思っていると

は限らない。

- ・ 貧富の差を感じた。世界中の富を全員で分けるとちょうどになるのに。
- ・ 平和だ平等だといいながら全く違うと思う。今日のご飯にも困る国の人があった。
- ・ いろんな国について色んなことを知ることができた。私たちが住んでいる日本は、他の国に比べて、子どもは学校へ行けているし、文字も読めるし、食べ物にも困っていないので、すごく幸せなんだと感じました。世界には色んな問題があるんだと分かりました。

PPT「世界がもし100人の村だったら」より抜粋



5・6時限目 「貿易ゲーム」

前時に100人村のワークショップで体験した貧富の差はどこからくるのかを貿易ゲームを通して体験的に学ばせる。渡された袋の中に入っていたものから南北格差を考えさせる。道具がそろっていたところは、始終優位だったことが何を意味するか考えさせる。次に、市場価格の変化について、急に製品の値段が変わることで体験したことを振り返らせる。市場のニーズが変化することは、現実社会ではバナナやコーヒー、砂糖などを表しており、開発途上国が外貨を獲得するために作っていたものが、価格が下落し大打撃をうけることを意味することを確認する。他のグループで作業した人が、手間賃をもらって他のグループで作業することが、移住労働者にあたること、先進国への「出稼ぎ」を意味することを知らせ、フィリピンやスリランカなどは国が積極的に送り出している

ことも触れる。他から助けられたことについて、どんな助けがあったかを振り返らせ、どんな助けが必要か、国際協力のありかたについて触れておく。次時では具体的な援助について学習することを知らせる。

【生徒の感想】

- ・ 貧しいチームだったから大変だった。途中で嫌になったが効率よく生産する方法を考えた。他のチームがうらやましくなった。仕事ができるとやる気が出てきた。
- ・ 裕福なチームは、もっともっと稼げる仕組みになっていると思う。先進国は他の国に目を向けるべき。
- ・ 技術があるのとないのとで、チームの格差が大きいと思った。他のチームと貸したり借りたりして作業することができたから、援助してもらってありがたさを感じた。

そういうのは大切だなって思った。

- ・ 私たちのチームは、人は多いけど技術がないので何もできなかった。だから先進国チームに技術を少しずつもらった時、とても嬉しかった。これが必要とされる援助なんだなあと思った。

### 7・8時限目 『『支援』とはなんだろう』

100人村や貿易ゲームを通して、世界全体に目を向けることができるようになった後、インドネシアでの地震について学習を進める。シアンさん、サルジウムさんの事例を写真やDVDを通し、おかれている状況を想像し、インタビューを読む。シアンさんを支えたものは何だったかを考える。シアンさん、サルジウムさんを取り巻く困難な状況を考え、必要な援助はどんなことか考える。自分もしインドネシアに行ってお二人を助ける立場になったら、何を援助するかを考える。日本からは、実際にどんな援助があったかを知る。

シアンさんについては、暮らしやすい家や、必要な福祉用具について目を向けさせる。強い精

神力で、リハビリを続けたシアンさんにとって、宗教や家族が精神的な支えであったことを知らせる。また、日本の障害者や高齢者の状況と比べてみる。

次に、サルジウムさんをシアンさんと比較して、精神的な支えについて考えさせる。収入を得ることができないサルジウムさんへの援助はどうすればよいか考えさせる。前回の貿易ゲームで考えた適切な援助とは、お金を渡すことだけではないことを振り返らせる。また、リハビリや麻痺に対する知識の大切さを知らせる。

JICAのビデオを見せて、実際にはどんな援助があったかを知らせる。援助について振り返り、日本が行っている援助について学ぶ。貧富の差を越えて、世界の人々がよりよく暮らすために、できることを見直す。

看護師さんと栄養士さんに伺ったお話を最後に触れる。評論するだけでなく、自分に何が出来るかを考えさせる。

「支援について考えよう」で生徒の話合っている様子





「支援について考えよう」でのワークシート

**豊かさについて考えよう 4**  
豊かさについて

学習を進める前に  
 今までの学習を振り返ろう

鳥島、筑波途中と共通点、違い

★ スマトラ沖地震によって下半身麻痺になられたお二人（シアンさん、サルジウムさん）  
 写真やDVDから想像できること（できるだけたくさん記入しよう）

インタビューを読みます

養護学校の先生を志していたが、  
 ・お風呂が地震がきて下りことなり、寒いになった。  
 ・夫が助けてくれた → 旦那さん → 旦那さんがお風呂の掃除をする。  
 ・足は何も感じない。  
 ・ユニフォームから臭いするもろもろ → 洗濯機に洗濯機  
 ・今は福島の隣に家がある。週1回 夫のバイクで家へ行く。  
 ・地震の前日、思えば原因不明で地震を感知した。

・テントに住んでる（家の中が汚い）  
 ・コップが洗いっぱなしにしている。  
 ・ゴミが散らかっている。  
 ・洗濯でテントを濡らして、今はそこを家として使っている。  
 ・底着に履いてる。  
 ・入浴しても、入浴を断らる。（看護士の仕事がない）  
 ・家なし、足が重たい → 病院での通院なし。  
 ・家族がいない。 → シツ交換は、家族の仕事

シアンさん、サルジウムさんを取り巻く困難な状況を考えよう

シアンさん	サルジウムさん
<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守りの世話ができない。(心ある)</li> <li>・自分の事をすくのが大変。</li> <li>・トイレは近いので、その移動が大変。</li> <li>・寒い、暑く、汗ばたばたする。</li> <li>・床が痛みます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族がいないこと。</li> <li>・病院に行っても断らる。</li> <li>・毎日、不安で仕方ない。</li> <li>・テントの間際</li> <li>・臭いがする。</li> <li>・生活を立て直す。</li> <li>・収入を得よう。</li> </ul>

シアンさんを支えたものは何だったのでしょうか。家族、仕事、コミュニティの支援  
 家族と学校

自分もインドネシアに行ったら、何を援助するかを考えよう。

シアンさん	サルジウムさん
<ul style="list-style-type: none"> <li>・床ずれ防止のために寝返りを してあげたい。</li> <li>・できる限り家族と一緒に行きたい。</li> <li>・心と体をケアする必要がある。</li> <li>・病院(マホ)に対する知識を教える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臭い、水をあげたい。</li> <li>・心と体を(一緒に)ケアする。</li> <li>・少しの言葉をあげる。</li> <li>・安全な場所を見つける。</li> <li>・床が痛くならないように、クッションの敷き物 をあげる。</li> </ul>

DVDを参考に書いてみよう

いろいろな支援+心のケアを参考にしながら、実際に  
 自分ができるようにすることも目指して欲しい。と、  
 かくいって思いました。私も、あこがれの国なので、  
 よりよく暮らしてほしい。

貧富の差を越えて、世界の人々がよりよく暮らすために、できることは何だろうか  
 DVDを参考に書いてみよう

私は、この動画で、その辛い状況を観ました。あの時の精神的にも  
 辛い思いをして、一緒に生活して、助けたいと思う部分も前の方で、  
 少しでも知れたいと思う。社会で、その辛い状況を、助けたい人  
 一人一人に話を聞いてもらって、その辛い状況を、その中を乗り越えて  
 生きていけるようにしてあげたい。病院に行けるようにして、  
 看護士→世界の人を助けるには、  
 必要にして、その辛い状況を、  
 乗り越えて、生きていけるようにして、

【生徒の感想】

- ・ テレビで間接的にしか知らなかったの、びっくりしました。まだいまだにたくさんの方が不自由をしながら生活しているなんて考えたこともありませんでした。むしろ、もう終わったことだとばかり思っていました。勉強した中に出てきた二人の人は今どうしているのかとても気になります。あの一瞬の出来事で家族を失ったり、家がなくなったり、家に帰ることがトラウマになったり、自分の自由が利かなくなったり。私たちが何も知らずに生活している間にも、インドネシアの被災された人は良くなることを信じて毎日生活しているんだと思うと悲しい気持ちになりました。
- ・ 地震のことは怖かったけど、勉強してもっとわかりました。地震によって家族をなくす苦しみと、自分の心身の自由をなくす苦しみ、常に怖さと戦う苦しみ・・・とてもつらく苦しいと思います。でも今の自分にはどうすることもできない、だから日本

のように豊かで贅沢な暮らしをしている人が寄付したり援助する方法があるんだと思いました。そんな辛さを支えるのは、家族であり友人であり、援助なんだと改めて思いました。私たちは少しのことで、「嫌や〜」と言ってしまふけど、世界に目を向けると本当に贅沢な暮らしだと思います。まだインドネシアの復旧にむけての作業は続くと思うけど、前よりも少しでも良い暮らしができるようになってほしいです。とても興味のある勉強ができて良かったです。

- ・ 地震が怖くてテントで住んでいたり、体が不自由でもみんな強く生きている、と思った。子どもたちも目がキラキラしていて、わたし達日本人は、生活は豊かだけど、こんな風に強く生きているかなあと考えさせられた。豊かさっていうのはモノだけじゃないよな、と思う。もっと他の国に目をむけていきたいと思った。(中略)そして今ある豊かさに感謝して生活していきたい。

- 大地震はインドネシアの人々に体の傷だけでなく、心の傷も残していったことが分かりました。それを援助しにインドネシアへ行っている人はすごいと思います。生活の支援や床ずれの治療、働いて収入を得るようなサポート・・・、モノをあげておしまい、ではなくて自立していくまでの支援というのはやっぱり大変だと思います。そして、麻痺に対する知識があまりないと聞いたのは驚きました。薬では麻痺は治らないと知らなかったということに対しては、病気に対しての知識をつける支援をしていけばいいんじゃないかと思いました。私は、これまで知らなかったことが分かったし、どういう状況にあるのかもわかったので、自分は何が出来るか考えていきたいと思いました。
- 一番最初に思ったのは、地震って本当に怖いな、ということ。二人の女性について学んで、私たちがどれほど不自由なく安全に暮らしているかを改めて実感しました。二人とも足が不自由で車いす生活をしているけど、買い物や家事などとても大変そうです。シアンさんは家の入り口に段差があるし、家族と離れて暮らすことは不安だと思います。それから、サルジウムさんは入院できないことも辛いと思います。助けが必要なときに助けてもらえないのは悲しいと思います。こういう人のためにホームヘルパーがいたり補助具が給付されたり日本のようになればいいのと思います。
- 体が不自由になっても、協力隊の人がひらいた運動会があったりして、人生をあきらめたらいけないな、と思いました。世界には貧富の差があって、困難はあるけれど、ビデオを見て、がんばろう、という気になりました。
- 私はこの授業で、ものすごく貧富の差を感じました。私の将来の夢の中にも、看護師になって、貧しい国へ行って、一緒に生活して、助けたいと思う部分もあったので、こういうことが知れて良かったです。私だったら、やっぱり医療的な援助はもちろん、一緒にお話をしたり、歌を歌ったり、その人の好きなことをしたり心の中も重視して少しでも笑顔になるようにしてあげたい。病院に行けたら安心できると思いました。あの看護師さんは、インドネシアの人を助けに出たのは、本当にすごいと思いました。

PPT「支援について考えよう」から抜粋

<p style="text-align: center;">社会福祉基礎</p> <p style="text-align: center;">援助について考えよう ～インドネシアの被災地を通して～</p> 		<p style="text-align: center;">お一人目・・・シアンさん</p> 
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



シアンさんは



乗換学校で働いています。

地震の時のお話を伺いました。紹介します。

考えてみよう



この人には、どんなことに困っているだろうか？

お二人目・・・サルジウムさん



サルジウムさんは



家の奥に

裏には大きな家々が

考えてみよう



この人には、どんなことに困っている？

青年海外協力隊の方のお話から



9・10時限目 「インドネシアの子どもたち」

「子どもの権利条約」「子どもの幸せとは」

PPT を使って、インドネシアのストリートチルドレンの支援施設について紹介する。なぜ、このような施設があるのか、ストリートチルドレンとはどのような子どもたちかを説明する。また、NGOとJICAの取り組みについて紹介する。

その後、子どもの権利条約について、グループワークを通して考えさせる。子どもたちがほしい物、必要であるものをもとに、子どもの権利について定義する。子どもの権利条約を読む。

【生徒の感想】

- ・ 親が子どもを路上で働かせなければならぬ状況にある国というのは、本当に無残だと思う。子どもが一人一人生きる上で大切なこと(単に生存するだけでなく、教育や愛情、意見を聞いてもらうことなど)が、結構あることがわかった。
- ・ 今日考えた子どもの権利一つ一つが、世界中の子ども一人一人にあれば、死んでしまう子どもはいないだろうと思いました。
- ・ 特に貧しい国の子どもは弱い立場で、大人の都合で権利を勝手に決められがちやけど、それはおかしいこと。

PPT「インドネシアの子どもたちと子どもの権利条約」より抜粋

これは何をしていますでしょうか？



子どもの権利について考えてみよう

世界中には、貧困などの原因により、子どもの権利が守られていない状況もある



ストリートチルドレン支援施設



インドネシアのジャカルタ

## 番外編

1. フードデザイン「マレー(風)料理を作ろう！」  
～ナシゴレン・サテアヤム～」
2. 時間数:3時間
3. 対象学年:2年
4. 対象人数:フードデザイン選択者37名

マレーシアへ修学旅行に行く前に、ナシゴレンやサテアヤム作りを行った。ココナッツミルクや、スイートチリソース、ピーナツバターなど普段料理には使わない調味料をおそるおそるなめている生徒もいた。作った料理は、他教科の先生に試食していただいた。家庭科では、3F(Food、Fashion、Festival)のうち Food、Fashion の二つをテーマに授業できる教科なので国際理解教育の導入として最適だと感じるが、一方でどう展開していくかが大きなポイントになると思う。その国や地域固有の食文化が、発達してきた背景や歴史、生活習慣などを生徒たちにどう考えさせていくのが重要だが、今回はそこまでせずに終わっている。生徒の感想の中には、そこにつなげていくようなものもあったので、今後の課題としたい。



調理実習で作ったナシゴレンなど



調理実習で作ったナシゴレンを食べている生徒

### 【生徒の感想】

- ・ 初めて外国の料理を作って、日本にはない調味料を使うんだなと思いました。でも思っていたよりおいしくてびっくりしました。ナシゴレンは、日本の炒飯よりも濃い味で、おいしかったです。サテアヤムは、日本でいう焼き鳥で、オーブンで焼くと聞いてびっくりでした。カレーとココナッツの味がすごくあったけど、パリパリしていて、おいしかったです。日本とはまた違った味で少し味が濃かったけど、おいしくできて良かったです。こんな料理ならマレーシアに行っても、食べられるんじゃないかと思いました。向こうに行って、食べ比べてみたいです。
- ・ 今日、私はナシゴレンの担当をしました。うまく作れるか不安だったけど、意外と簡単にできてびっくりしました。他の料理もココナッツミルクを入れたり、ピーナツバターを入れたりなじみの無いものを入れていたので、どんな味になるんやろ・・・？とそんなことばかり考えていました。でも実際出来上がったのを食べてみると、どれもおいしくて、なんか嬉しくなってマレーシアに行くのが楽しみになりました。今回の実習を通して、これからも他の国の料理に挑戦したいと思いました。

### 3. 成果と課題

福祉の授業に、国際理解の視点を取り入れる試みを行ったが、どの授業も生徒に好評で成果が得られたと思う。被災地で身体障害者となられた方への支援活動や、ストリートチルドレン支援についての学習を今回のポイントにおき、授業を構成した。授業での生徒たちの反応は素直で純粋なものであった。感想を読むと、生徒たちが物質的に恵まれ、ものがあふれている生活を見つめなおし、批評家や評論家にならずに、“自分にできることは何か”を考えるきっかけになったのではないかと思う。

ただ、福祉の授業なので、国際協力の授業としては不十分な点があった。また、私の偏ったイメージを植えつけていないかという気持ちはどの授業をしても気がかりなことであった。果たしてインドネシアのことを表面的なものでなくしっかり伝えられたかは自信がない。訪問先での歓迎に心も和まされ、ゲシアン村での交流やホームビジットで感じた子どもの純粋さや心の温かさは、写真だけでは伝えることが難しいものだった。

生徒には「外国＝先進諸国」というイメージや、異文化、とりわけ発展途上国に対し、「貧しい」「遅れている」「汚い」などのマイナスイメージが先行しがちなことも否めない。マレーシアへの修学旅行では、すばらしい経験をし、大いに楽しんだ生徒たちだったが、感想の中には、「やはり日本が一番だ」というものが多く見られ、結局は日本に生まれてよかった、という意識を超えることが難しい。人々の暮らしや文化についての理解が充分でないと、そういう反応も起こりうるので、効果的な事前学習の重要性を感じた。

インドネシアの被災地についての授業は、校内研究授業として授業を見に来てもらうよう呼びかけたが忙しい中での参加は少なく、もっと多くの教員に知ってもらうための努力が必要だった。

私自身が、今までに国際理解教育や開発教育に携わったことはなかったが、マレーシアへの修学旅行をきっかけに、暗中模索の状態スタート

をきったが、良い経験になったと思う。これからも機会があれば、授業に今回のような視点を取り入れていきたい。

## 4. 授業実践報告会

## 4. 授業実践報告会

### 4-1 授業実践報告会 : 2008年2月24日(日) JICA兵庫にて実施

- 目的： ① どのような視点で教師海外研修（現地）に参加したのか、各研修先で教員として感じたこと、子どもたちに伝えたいと感じたことなどを中心に現地での報告を行なう。
- ② 教師海外研修で得たものをどのように授業で活かしたのか、工夫点やそれに対する子どもたちの様子、また反省点・難しかった点などを中心に、多文化共生・開発教育などの授業実践内容を発表する。
- ③ 2006年度の教師海外研修の授業実践報告を通して、継続して授業実践を行なう意義を伝える。
- ④ 教師海外研修での経験を教室や地域でどう伝えるか、今後に向けて研修参加者と報告会参加者との意見交換・情報の共有を行なう。

- 研修項目： ① 教師海外研修報告
- ② 授業実践報告Ⅰ（小学校参加教員）、授業実践報告Ⅱ（高校参加教員）
- ③ 授業実践報告Ⅲ（研修から2年を経ても実践中の参加教員（絵画贈呈式含む。））
- ④ 分科会（意見交換など） テーマ：研修での経験を教室や地域でどう伝えるか

時間帯	会場	内容
13:30～13:35	JICAプラザ兵庫 (広報展示室)	開会 挨拶 所長 森川秀夫
13:35～13:40		教師海外研修の概要説明 JICA兵庫
13:40～14:00		教師海外研修報告 岩本芳仁・岸岡 歩
14:00～14:20		授業実践報告Ⅰ 濱田 理
14:20～14:40		授業実践報告Ⅱ 藤川綾香
14:40～15:00		授業実践報告Ⅲ(継続2年目の実践より) 絵画贈呈式 岩本敏浩 榮木千恵
15:00～15:10		休憩
15:10～16:10		分科会(意見交換など) テーマ:研修での体験を教室や地域でどう伝えるか
16:10～16:25		来年度の教師海外研修のお知らせなど JICA兵庫
16:30		閉会

参加者（合計12人）内訳：

県内小学校 教諭	1人
県内中学校 教諭	1人
県内高校 教諭	8人
報告者の関係者（勤務先教頭）	1人
県外養護学校 教諭	1人





教師海外研修報告



授業実践報告Ⅰ（小学校参加教員）



授業実践報告Ⅱ（高校参加教員）



授業実践報告Ⅲ（2006年度参加教員）

< 2006年度教師海外研修の成果 ～生徒の絵が美術展で入選～ >

兵庫県立豊岡総合高校3年生の榮木千恵さんが、第58回豊岡市美術展の豊岡市教育委員長賞を受賞した絵画をJICA兵庫へ寄贈しました。この絵画は、2006年度の本研修参加者である岩本敏浩先生が、研修国のスリランカで撮影した写真を国際関係学の授業で紹介したものを基に描かれたもので、本研修が教育現場で活かされている事例として報告しました。



絵画贈呈式



分科会（ワークショップ）

## 4-2 授業実践における反省点、難しかった点

- ・ 子ども達に何を学習させるのかをもっと明確にしておけば、現地での収集物も違っていたと思う。
- ・ 生徒にアンケートをとっただけで終わってしまったが、それぞれが思ったこと、感じたことを出し合い、どんな違いが感じられたのか話合えば良かったと思う。
- ・ 授業を行なう際、学年及び学校単位(全校生)での協力が不可欠である。研修に参加する前から学校全体に協力依頼を行なう必要があったと考える。
- ・ インドネシアを定義が不明確な「新興国」と教えたことや、ハラルマークの意味を生徒に伝える際「豚肉が入っていない」のみ強調し、イスラム教の教えによって「許された」ものという意味を伝えていなかった。間違っただけの情報を生徒に伝えてしまった場合、授業内で補足説明をし、修正する必要がある。
- ・ 子どもたちの異文化への興味・関心を、これからの学習にどう活かし、つなげていくのかということが一番大切なことであり、難しいことであると考えます。

## 4-3 研修での経験を教室や地域でどのように伝えるか（分科会より）

- ・ ゴールを決めなくて、継続していくことが大切。
- ・ モノ、音楽、食などを五感を通じて、異文化を知ること。お互いの国を理解することに視点をあてる。
- ・ 途上国の貧しさを強調しすぎない、夢や希望を持って生きているところにも目を向ける。
- ・ 体験を通して、子どもたちに「何を」伝えるか。偏った考え方を直すきっかけにする。
- ・ 途上国の現状を知る(調べる、体験する)、伝える。⇒ 子どもたちが自分にできることを考える。
- ・ 地域を巻き込むために各地のイベントを利用したり、保護者に向けての公開授業を行ったりする。
- ・ JICA、大使館、保護者、ODA民間モニター、NGOなどのリソース(外部講師等)を活用する。

## 4-4 授業実践報告会参加者の声

- ・ 現地での報告で、教師が子どもたちに伝えようと、様々な資料となるものを一生懸命探した様子に好感が持てました。発表した先生方がいきいきと体験談内容や授業実践を語られたのが良かった。
- ・ 在校生にインドネシアの子どもがいる場合の、研修内容の取り上げ方の苦慮についての発表がとても印象に残った。
- ・ 「研修での経験を教室や地域でどう伝えるか」というテーマでの分科会は、色々勉強になりました。



## JICA (Japan International Cooperation Agency) とは

国際協力機構(JICA)は、開発途上国の経済及び社会の発展に寄与し、国際協力の促進に資することを目的として設立された独立行政法人です。主な事業として、技術協力(研修員の受入れ、専門家の派遣、機材の供与、開発調査など)、青年海外協力隊などのJICAボランティアの派遣、無償資金協力事業の実施促進、災害緊急援助などを実施しています。

### <JICAは国際協力や開発教育支援を通じて、地域の『元気』を応援しています>

#### ●中学生・高校生エッセイコンテスト

開発途上国や国際協力について考えていることを、400字詰原稿用紙4枚以内(中学生は3枚以内)にまとめて応募してください。募集期間は、5月～9月で、中学生・高校生とも、特選は、JICA理事長賞2人・外務大臣奨励賞1人・文部科学大臣奨励賞1人の計4人で、副賞として1週間の海外研修旅行の機会が与えられます。他にも、準特選・審査員特別賞など多数の賞を用意しています。

#### ●国際協力実体験プログラム

JICAの国内機関へ生徒と指導教師を招き、国際協力について理解を深める機会を提供しています。主に国際協力について、また、国際災害援助、防災援助についてワークショップや研修員との交流会などをまじえた開発教育支援・国際理解(多文化共生)教育支援事業を実施しています。

#### ●JICA国際協力出前講座

開発途上国の実情を知り、国際協力の必要性を理解していただくため、JICA職員や専門家・青年海外協力隊のOB・OGなどを講師として派遣します。

#### ●JICA研修員の学校訪問

開発途上国から技術研修のため来日中のJICA研修員を、国際理解と交流のために学校へ派遣します。

#### ●青年研修事業

開発途上国の国づくりを担う青年を日本に招き、専門分野(教員、地方行政、農業など)についての研修を行っています。

#### ●パンフレット・ビデオなどの提供

JICAでは、国際協力やJICAの活動について紹介した各種パンフレットを準備していますので、ご請求ください。また、ビデオ・パネルの貸出も行っています。

#### ●JICAインターネットホームページ

エッセイコンテストや青年海外協力隊員などの各種募集情報、開発教育に関する情報、ニュースレターなど、JICA発信の最新情報が見られるほか、開発途上国に関する情報のデータベースも利用できます。

※JICAホームページ <http://www.jica.go.jp/>

また、国際協力に関する各種情報を掲載したメールマガジンの配信(無料)もおこなっています。購読希望の方は、JICAホームページにアクセスし、登録手続きを行ってください。

**お問い合わせは、JICA兵庫 Tel: (078)261-0341**  
**<http://www.jica.go.jp/hyogo>**

## 平成19年度 教師海外研修(インドネシア)応募用紙

ふりがな		性別	生年月日	年齢	
氏名		<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性	19 年 月 日	歳	
本人現住所	〒□□□-□□□□ Tel: _____ e-mailアドレス: _____ Fax: _____				
渡航時の連絡先	〒□□□-□□□□ Tel: _____ (続柄: _____) Fax: _____				
ふりがな		職名			
所属学校名 (正式名称)		担当教科			
学校住所	〒□□□-□□□□ Tel: _____ Fax: _____				
趣味・特技					
JICA主催の事業 について	1、JICA主催の事業へ参加されたことがありますか？ <input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない 2、(1、であると答えた方) 何の事業にいつ頃参加されましたか？ (事業名: _____ 時期: _____)				
アレルギー・病気等	過去の申込経験	海外渡航の経験			
<input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<input type="checkbox"/> ある _____年	<input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない _____年 国名 _____ _____年 国名 _____ _____年 国名 _____			
詳しくお書きください	<input type="checkbox"/> ない				
外国語会話	○をつけてください	会話が堪能	意思疎通が 可能	簡単な 日常会話	写真 (4×3cmまたは4.5×3.5cm) 裏面に氏名を記入
	英 語				
	語				
	語				
私は募集要項記載事項をすべて承諾し、この研修の参加を申し込みます。					
平成19年 月 日 氏名 <span style="float: right;">(印)</span>					



